静岡県歯科技工士会　2021　抄録

デジタル技工の到達点

㈱医科歯科技研
藤原芳生

近年になってようやく本来のデジタル・デンティストリが本格化され、弊社でも「ものづくり」のためのCAD/CAMから治療・診断の補助のためのCAD/CAMの利用へと課題は変化してきております。口腔内スキャナーも単なる印象採得器具ではなく、口腔内データ取得器具として認識されるようになってきました。

ここ数年で、スキャナをはじめとしてソフトや加工機、データの移行システムなどが著しく進化し、技工の全てが口腔内スキャナから始まる時代がすぐそこまで来ています。スキャナがデジタル・デンティストリの入り口である限り、そのデータの性質やソフトについてはもちろんのこと、加工機、素材等について情報を整理する必要があります。それらの課題について歴史をたどり、デジタル・デンティストリがどこまで進化してきたのか、さらにその近未来の姿、最近注目されだした人工知能AIについても言及いたします。

IDSケルンメッセの報告とともに、スキャナなどCAD/CAM機器がどのように進化し、デジタル・デンティストリ全体が今後どうなっていくのかを考えてみたいと思います。すでに現在では石膏模型を必要としないデータだけによる技工も可能です。デジタル機器によってどんなことができるのか。さらに、弊社のリアルタイム症例検討システムのように、「ものづくり」ではない「ことづくり」にはどのような利用法があるのか。これらの基本的情報をまとめてみます。

このような歴史的な転換期にあって、私たち歯科界にはどのような世界が広がっていくのでしょうか。近未来の風景を垣間見るために、人工知能による自動作業やデジタルデータによる診療補助など最新情報を含めた形でお話しし、歯科技工士の新しい姿も提示したいと思います。